

エッ！ また？ 介護保険の改悪計画！

「お風呂のいすは

大切な福祉用具」

今、政府が示している介護保険改悪の一つに、介護保険で貸与されている福祉用具（車いす、歩行器、電動ベット、手すりやスロープ、補助づえなど^{1,3}種類）について、要介護2以下の保険給付外し（原則自己負担）が検討されています。

自宅で奥さんを介護している男性の話です。「お風呂で使ういすを買いました。3万円もしましたが介護保険で一割負担でした。

もし、これが全額自己負担になったら、使うのをあきらめてしまう人がでているのでは・・・うちでは奥さんがこのいすを使うことで自分で入浴できる大切な用具です。」

福祉用具の利用で生活ができる、トイレや入浴ができる、外出ができるという利用者の自立した生活に大きな役割を果たしています。

「さらに介護保険改悪計画が」

主な内容は、要介護1・2のデイサービスや訪問介護を保険給付から外す。1割負担の介護サービスの利用料を2割に引き上げる高齢者を拡大する。

また、利用者の自己負担上限を現在3万7200円から4万4400円に引き上げることなど、多くの内容が検討されています。

「給付削減先にありき」

介護保険の見直しは、つい最近、要支援1・2のデイサービス・訪問介護を保険から外し、自治体の事業に移されたばかりです。

さらに要介護1・2の保険外は、必要なサービスが使えず、ますます「給付削減さきにあき」です。

高齢者が大切にされない仕組みは、現役世代の安心も保障されません。

戦争法（安保法制）の本格運用で「殺し殺される」深刻な事態に

安倍政権は、安保法制にもつぎ、自衛隊にPKOでの新任務を想定した訓練開始を決めました。

しかし、新任務を想定する南スーダン¹は事実上の内戦状態で、PKO参加原則である停戦の維持も、当事国の同意も危なくなっています。

南スーダン（アフリカ）では、大統領派と副大統領派との戦闘行為が再開され、政情不安が続いています。

このようなかで、南スーダンPKOに十一月第十一次隊として派遣予定の陸上自衛隊部隊 青森市駐屯

「思いやり予算」って？

小川町の平和のための戦争展の特展企画。ドキュメンタリー映画「ザ・思いやり」を観てきました。

赤旗では時々取り上げられますが、国民の税金から年間8900億円もの大金が米軍に対して「思いやり予算」として大盤振るまいされています。東日本大震災、原発事故被災者、近くは熊本地震被災者等、たくさん日本国民が厳しい生活をしています。

税金の使い方が本当に間違っています。

が早速訓練をはじめました。離れた場所で武装集団に襲撃された他国軍などを救出する「駆けつけ警備」や他国軍と共に宿営地を守る「宿営地共同防衛」を想定しています。

新任務では、今まで不可能だった「任務遂行のための武器使用」などが認められています。

内戦状態にある国への派遣で、自衛隊員が戦後初めて殺し、殺される「という深刻な事態が起こりかねません。」

す。米軍基地の住宅、学校、プール、ゴルフ場から電気代まで数え上げればキリがありません。あげくの果てには罪を犯した米兵の賠償金までが思いやり予算から出ているとは絶句です。

「これでも独立国ですか？、アメリカは沖縄に対して行った土地接収や自然破壊をグアムの先住民にもやっています。映画を作ったのは理不尽な思いやり予算に疑問を持った日本在住のアメリカ人。」

